クアラ作戦万歳！

"緊張緩和"を粉砕せよ

日本赤軍声明

八月四日に行われたクアラルンプール米大使館占拠闘争に関する日本赤軍の四つの「コミュニケ」が送られてきたので掲載する。

コミュニケ（一）

日本赤軍は牢獄の同志救出作戦を宣言する

一、この作戦は世界帝国主義による搾取と抑圧に非妥協的に対決する革命的人民の戦いの一環として行われる。我々の義務であり権利である革命の原則と倫理に基づいて行われる。

二、米帝を頭とする世界帝国主義は所謂「平和共存」とか緊張緩和の名のもとに世界人民の反帝闘争の圧殺を目論んでいる。「平和共存」は、世界帝国主義者が自らの搾取と圧迫を擁護するために人民の闘争を分断し破壊しようとして、反革命同盟軍を巻き込み、動員しようとする政策である。

三、しかし世界の状況は極めて明白である。人民の圧倒的な団結は如何なる種類の近代兵器よりも強力である。このことはベトナム、カンボジア、ラオスの勝利で証明された。世界中の革命的人民は—米帝の盟友でありその手先であるシオニズムと断固闘っているパレスチナ人民、アラブ人民をはじめとする革命的人民は、これらの勝利から多くのことを学んでいる。我々世界の革命的人民は共通の敵と対決し、世界中の戦場をつないでいくであろう。我々は必ず勝利する。

四、米帝は自らの敗北から学ぶことが出来ない。そればかりかチリでクーデターの工作を行ない、マヤグエス号事件の如き挑発行為を引き続き行っている。朝鮮人民に核兵器使用の脅迫を行い、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民に敵対している。帝国主義こそ世界人民の最大の敵であり、米帝はその首領である。

五、日帝は今や公然と軍事介入によるアジア侵略の計画をたて、その軍事同盟を強化している。南朝鮮を拠点に米帝の反革命陣営の一翼としてその反動的牙をむき出している。そのために国内の革命勢力の弾圧に必死になっている。沖縄を米軍より譲り受けた後、沖縄をアジア諸国侵略の前進基地とし、核兵器をも配置している。日帝も又アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民に敵対し、各地の反動勢力を共犯に利用しているのである。日帝は人民、特にアジア人民の直接的な敵である。

六、「福祉国家」でカモフラージュしているスエーデン帝国主義は、日本、ドイツ、アメリカの諸帝国主義者とシオニストの呼びかけに答えている。反革命勢力とますます協力することにより、その本性を暴露しているのだ。スエーデンの権力者は我々日本赤軍の同志を逮捕し日本の権力者に引き渡した。彼らはドイツの革命組織の同志にも攻撃を加えた。

七、スエーデン政府が帝国主義陣営の一部分を構成することは明らかだ。同志を釈放せよとの我々の要求にも拘らずスエーデン政府は三月十三日に我々の同志を日本政府に渡した。この挑発的な行為は我々の同志を拷問と牢獄にしばりつけることを狙ったものだ。我々はコミュニケでスエーデン警察によって不当に拘禁されている同志を即時釈放するよう要求し、又、日本送還をやめるようにも要求した。しかし彼らは我々が要求を出したその日に日本へ送還したのである。これは実に敵の典型的なやり方である。一九七四年九月のハーグ作戦を思い出すがよい。あの時我々はフランス政府に十月までに同志を釈放するよう要求した。[illegible]送ったが、フランス政府はそれを無視したばかりか、我々に対する弾圧を強化した。その結果がハーグ作戦である。ハーグ作戦を進めるにあたっての我々の決意は固かった。現在も決意は強固であり、将来もそうである。だから覚えておくがよい、革命家の約束は必ず果されるものである。帝国主義者よ、この言葉を自らへの警句とせよ！

八、日本赤軍は革命闘争を闘い抜き、単に日帝ばかりでなく、日帝と共通の利害をもつ米帝を頂点とする世界帝国主義者らの演ずる「緊張緩和」構造をも粉砕するであろう。

コミュニケ（二）

一、我々戦士は決して諦めない。作戦は計画通り運んでいる。日本政府の策謀は見抜いている。直ちに要求に応ずるのが得策だろう。

この作戦は第三世界人民の革命闘争に敵対する米帝及び日帝に復讐を加えることにある。我々は被抑圧人民に対する帝国主義者共のやり口を断じて許すことは出来ないのだ。米帝国主義軍隊がベトナム、ラオス、カンボジア人民に行った卑劣な行いを許すことは出来ない。スパイ船マヤグエス号の策謀への報復でもあるのだ。

革命的人民や組織に対し反革命的行為を行う者達をそのままにしておく訳にはいかない。革命的人民は「プロレタリア国際主義と組織的暴力革命」を擁護する。我々の同志を逮捕し拘禁する日本及びスエーデン帝国主義者に報復する。

二、我々は戦士に対する敵の如何なる攻撃に対しても敏速に行動する用意がある。もしも我々の要求がはっきりと受け入れられないなら、それに対する我々の答は苛酷なものとなるであろう。その場合責任は日本、アメリカ、スエーデン、マレーシア政府にある。

三、最近フォードと三木との間に会談が予定されているが、それは「アジアと太平洋の国々を支配する計画」をたてることにある。この両帝国主義勢力は、いくばくもない余命とアメリカ、日本、南朝鮮のかいらい政権による反革命軍事体制を維持しようとしているのだ。更にアジアの革命勢力を包囲する計画を討議し、又、アジアの利権の分配について話し合おうとしているのだ。

我々はアジア人民と手を組んで敵を倒すまで戦い続けることを宣言する。

四、シオニストのラビン首相がストックホルムのヨーロッパ「社会主義」指導者会議に招かれた。スエーデン政府がワルトハイムとラビンの会談を準備し、シオニズムがパレスチナ人民、アラブ人民侵略をごまかしデモ宣伝をする機会を提供したのだ。スエーデン帝国主義者はシオニズム支持の本性を暴露し、かくしてパレスチナ人民の英雄的戦いに対する敵対姿勢を明らかにした。

五、我々はいつまでも帝国主義者と反動主義者を生きながらえさせはしないだろう。我々に世界中の戦闘的な被抑圧人民と連帯して彼らの息の根をとめるだろう。

全ての搾取され抑圧されている人民は解放される最終的な目標に向って前進する。

一九七五・八・五

コミュニケ（三）

一、作戦部隊の同志は計画通り任務を遂行している。

この作戦の唯一の目的は、同志を日本の牢獄から解放し、アメリカ、スエーデン、日本の帝国主義者共の傲慢さと、彼らの第三世界人民に対する抑圧的搾取政策を打つことにある。

二、帝国主義者共は我々の闘争及びこの作戦について偽りのデマを流布し、我々の目的を歪曲しようとしている。

我々日本赤軍は、我々が人質釈放の交換条件に金を要求したといううわさが全くのデマであることを断言する。これは敵が我々の作戦の意図を歪曲し、彼らが秘かに意図する策略を正当化するために流布させたデマである。

三、全世界の搾取され抑圧された人民と手を組んだ我々の闘いはなおも継続して行われる。帝国主義者ーシオニストに対する闘いをますます強化するであろう。

一九七五・八・七

コミュニケ（四）

クアラルンプール作戦万才!!

同志！

不屈の精神で闘っている全世界の同志!!

今や我々は五名の同志を解放し、前線で闘う他の同志に腕を差し出した。

我々は我々の同志を受け入れてくれたリビア革命政府と人民に心から感謝の意を表明したい。

我々は我々を支え励ましてくれた全世界の人民に感謝する。

我々は全世界の闘っている人民に、作戦を遂行した我々の戦士と作戦を後方から支えた同志たちの心からの連帯のあいさつを送る。

不屈の革命的精神を持ち、勝利を確信して前進するすべての闘う人民と我々との闘いの連帯の絆は日毎に強くなり発展している。

同志！

現代は帝国主義に対し「人民が歴史の主導権をにぎる」時代であることを認識しよう。

現代は、すべての不滅の勢力が団結して帝国主義者とシオニストを粉砕し、地球上から搾取と抑圧を消滅させる闘争を勇敢に推し進めるべき時代である。敵は、第三世界の民族解放闘争の前に、そして帝国主義自国ではプロレタリア独裁を目指す人民の階級闘争の前に、そしてプロレタリア国家の攻勢の前に、おびえ、追いつめられていく。帝国主義者はなおもあがいて搾取と抑圧体制の余命を延ばそうとしているが、その中で彼らは全世界の反帝国主義闘争に対し三つの反革命的犯罪を犯している

第一に、プロレタリア諸国家に対し「平和共存」を主張して、攻撃的な核兵器の独占を確保しようとしている。プロレタリア諸国家を「緊張緩和」の名のもとに帝国主義体制に組み入れ、プロレタリア階級闘争の世界的な波を封じ込めようと企んでいるのだ。

第二に、第三世界の革命に対し、「新植民地主義」的支配を目論んでいる。反動的政権を資本主義体制内に組み込むために、人民の解放闘争を分裂させたいのだ。技術援助や資本投資で「近代化」させながら、人民の階級闘争の勢いをそぎ、それを変質させようと企んでいる。

第三に、帝国主義者自国内の階級闘争に対し、プチ・ブルを資本主義体制内に組織して所謂「リベラリスト」に直接労働者階級を支配させて、対立を回避し、資本主義の内部矛盾を被い隠そうとしている。非妥協的に闘っている人民に対しては弾圧的支配を組織的に強化している。

一般的に言えば、敵は階級調和の策謀で階級闘争を制圧しようとしているのだ。そして搾取と抑圧と資本主義的支配の実体を依然として残しているのだ。

戦う同志人民！

帝国主義者とシオニストに非妥協的闘争を続けよう！

敵の策謀を粉砕する闘いを続行しよう！

我々は搾取と抑圧を廃止する革命への忠誠を誓い、勝利を確信する。我々には最大にして最良の武器「プロレタリアの団結」がある

ブルジョアども！

このクアラルンプール作戦は反革命的なお前たちに対する我々の回答だ。

我々は世界中の革命的人民の闘争の一部として同志救出作戦を行った。これは、CIA、DST、シオニストテロリスト等々が陰謀するお前たちの反革命同盟に対する我々の攻撃の一つにすぎない。これは革命的人民とともに行う正義の革命の一歩前進だ。

お前たちが例え我々に幾らかの損傷を与えたとしても、我々の革命理論を覆すことが出来ないのはこのためだ。

我々は絶えず人民とともに闘い、誤ちからは学習し、勝利することによって我々の正義を確信するに至る。

人民の闘争は絶えず勝利する！

一九七五・八・八

社説

脆い"現状固定化"

世界の大勢とシナイ半島協定

（1）

シナイ半島兵力引き離し協定が成立した。今年三月、インドシナ革命の急テンポの進展の前に、大づめの段階にまでさしかかっていた交渉を中断し、キッシンジャーが帰国してから約半年が経っている。その間に世界の情勢は一段と大きく動き始めた。

「平和共存」「緊張緩和」「現状固定」という帝国主義の反革命攻勢は、世界のいたるところで新たな矛盾を顕在化させ、革命的労働者・人民との対立は日ごとに鋭くなりつつある。この帝国主義の政治的動揺は、世界経済の危機的状況を増幅させ、増々泥沼へとおいやっている。インドシナにおける致命的な敗北以降、朝鮮半島の分断固定化とともに、"中東和平"の成立にかけた米帝の並々ならぬ決意は、彼らのこうした情況認識を反映したものであることにまちがいはない。"出口のない危機"の出口を求めて、九月五日閉会したIMF・世銀総会では米・仏の妥協が成立し、先進資本主義諸国は一致団結して第三世界の攻勢をはねつけた。国際収支の大巾赤字に苦しむ第三世界各国の要求を「いかなる国も、自分の問題を解決する為に、他国の行動を期待することはできない。」とつっぱねたフォード大統領の言葉は、次の事実とあわせて聞く時、初めて本当に理解することができる。

1、アメリカの直接投資の七割前後が先進国に向っていながら、アメリカへの利潤送金の六割が"開発途上国"からのものである。

2、シナイ半島兵力引き離し協定の成立に付ずいして、米国はイスラエルに対して、向う三年間にわたる六十億～七十億ドルの経済援助を、エジプトに対しては四億ドルの負債の肩がわりを含め六億五千万ドルの援助を約束している。

3、アメリカ政府の要請に基づいて日本政府はエジプト政府に二億円の借款を決定した。

（2）

各国政府関係者の口から流れる「不況打開の見通し」や「景気は底入れした」という言葉とは裏腹に、世界的な不況は深刻化の一途をたどっている。日本政府は第四次不況対策として、三兆円にのぼる公共事業への追加予算を発表した。続いて、公定歩合、預金金利の一%引下げを決定している。先の日米首脳会談においても、先進資本主義諸国が足並みそろえて景気刺激策を打ち出して行くことが確認されている。近く準備会の開催にこぎつけた五大国首脳会議でも各国経済をどのように建て直していくかが重大な討議テーマとなるにちがいない。しかし、このような不況対策は、根本的な各国経済ひいては世界経済の立て直しにつながりはしない。今回の経済危機が、帝国主義の世界支配の崩壊という政治的危機と不可分のものであり、それが帝国主義体制を支える富の根源となってきた、第三世界からの鋭い反撃として具体化されている以上、そのことは明かであろう。

[illegible]突は、キッシンジャーが"中東和平"の成立にかけた帝国主義の側の思惑も、そうしたことを踏まえているのだ。総額八十億ドル近いエジプト・イスラエル両国への援助が、単に、中東における"和平"のためだけに出資されたと考えるのは皮相にすぎよう。その巨額な金はアメリカの"中東和平"達成へのヘゲモニーの掌握と、その前提ともなる、アラブ反動派のだきこみ、パレスチナ解放闘争の圧殺の為に使われたものであり、それはとりもなおさず、"中東和平"のデッチ上げが世界の政治・経済動向に及ぼす影響の大きさを物語っている。

経済的な側面をだけ取り上げても協定成立の影響は極めて大きい。石油資源の支配は、一昨年秋以降のアラブ産油国との対立を経て、メジャーの実権が相対的に低下した。しかし、これまでのような直接的一方的な支配は認めないにしても、OPEC内部が、サウジアラビア・イラン親米派とリビア・アルジェリアの急進派とに分裂して、その有効な機能を果せなくなっている現在、メジャーの地位は維持されて行くであろう。今回の"シナイ協定"はそのOPECの対立に決定的なクサビを打ち込み、メジャーの活動にとって益々有利な条件を、中東からアフリカにつくり出すこととなるにちがいない。そのようにキッシンジャーは判断した。破綻寸前のイスラエル・エジプト両国経済を巨額の援助で支えることによって、米帝は自らの経済・政治支配を中東にうちたてんとしているのだ。

（3）

おいつめられた帝国主義の逃げ道が、世界のプロレタリアート・人民の更なる搾取・収奪の上にしかないことは明かだ。そして、彼らはそれを"緊張緩和"という構造の下に、第三世界の資源・人民からの収奪を突破口として進めようとしつつある。

しかし、インドシナ革命の勝利が明確に示したものは、すでに、歴史の流れの中で"緊張緩和"は創り出されるもの、から"維持される"ものへと変ぼうをとげつつあるという事実であろう。シナイ新協定は、"中東和平"を創り出すステップではなく、シオニストとアラブ反動派による中東の直接支配、すなわちとりもなおさず米帝による中東支配を維持・固定化するステップにすぎない。ベトナム以後の東南アジアにおいて、朝鮮半島において、南部アフリカにおいて、米帝による"緊張緩和""現状固定化"の策動を突破して、現状の変革を求める人民の闘いは着実に前進しつつある。

現代の世界経済の破綻が、究極的には世界の生産力と生産関係の矛盾の終局的段階である以上、その根本的な解決が、新たなる生産関係の創造なしにあり得ないことは自明である。その客観的情勢はますます成熟しつつあるのだ。敵の攻撃の本質を見抜き、具体的に闘いを組織して行く我々の力が今ほど必要な時はない。